## 第 55 回インナーゼミナール大会

## 研究計画書

ゼミ名	宮川ゼミ	チーム名	ぱチパちⅧ∞
タイトル	「選択肢が多い方が良い?」って誰が決めた? —選択肢の数が満足度に及ぼす効果—		
テーマ群	a) 理論・情報 e)産業・企業 g) その他		
メンバー	鍵田碧乙、中辻優衣、長澤茉子、木村波唯二、田中拳斗、津田旬、島本晴太、山本悠真子		
研究計画内容	【研究背景】 あなたは選択肢が多すぎて選ぶのに困ったことはないだろうか?例えば、ラーメンのメニューの数が多すぎて、決めるのに時間がかかってしまったという経験など、様々な経験をしたことがあるだろう。また、「もし○○していたら…/していれば…」というような"タラレバ"を考えたことはないだろうか?一般的な経済学では、多くの選択肢の中から選択した方が、満足度は高くなると言われているが、私たちのグループでは、冒頭で述べたような選択肢の数の大小やタラレバが、その後の行動の満足度に、一般的な経済学で考えられているもの異なる影響を及ぼすのではないかと考え、研究を行うことにした。 【研究内容】 選択肢の数が多ければ、迷いが生じ、タラレバを意識することが選択したものに対しての満足感の低下に繋がると考えたため、私たちは、「選択肢の数は少なく、タラレバを意識しない方が選択したものに対する満足度は高くなる」という仮説を立てた。この仮説を立証するために、ランダム化比較試験を用いてアンケートを行った。アンケートでは、回答者をランダムに、提示される選択肢の数を変えた「選択肢が少ないグループ」と「選択肢が多いグループ」と「タラレバを意識させるグループ」と「タラレバを意識させるグループ」と「タラレバを意識させないグループ」に分け、合計4つのグルーブを設けた。次に分析方法として、それぞれのグループの選択した財やサービスの満足度の平均値ついて、平均の差の検定である t 検定を用いることで、選択肢の数やタラレバが満足度に影響を与えるか明らかにする。また、迷い度や面倒さを感じることがどの程度満足度に影響を与えるかを調べるために、回帰分析も用いて分析を行う。 【期待される効果】 平均の差の検定や回帰分析を行い、各グループの回答を比較することで、「選択肢の数」や「タラレバ意識の有無」が満足度に与える効果を検証することができると考えている。本研究の分析結果を踏まえて、財やサービスを提供する企業の販売戦略と購入する消費者の行動戦略の両面について提案を行う。 【参考文献】 間田利央、小宮ありか(2024)「選択式問題における選択肢の数と後悔との関連」『社会心理学研究』 人木善彦(2014)「選択政財等のとりでは、「選択政財等の数しが選択財業の主義的満足反に与える影響」『立正大学心理学研究所紀要』 シーナ・アイエンガー (2010) 『選択の科学』 文整春秋		